謎の町D町

g g

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

謎の町Ｄ町

【Ｎコード】

Ｎ１６６７Ｌ

【作者名】

ｇｇ

【あらすじ】

中学二年生になった主人公、この頃から少年の本当の物語が始まる（大げさ）（笑）

第一話入学式（仮）（前書き）

この物語は主に主人公の実際に起きた事柄を下に製作しております
そのため
人物や市区町村等を特定されないために修正を加えていますので、
探しても
無駄です（笑）

なお、多少お見苦しい面もございますがそこは、御了承下さい。

第一話入学式（仮）

謎の町D町　第一話入学式（仮）

「在校生、新入生起立！！」

俺は新しく入ってくる、新入生たちを見ながら
こんな入学式は、早く終われば良いのにと思いながら
欠伸をかみ殺す

【メガネk】「いや～、やっと終わった」
入学式が終わり抑えていた欠伸を盛大にした

【手紙】「欠伸しないの」
【メガネk】「終わったから良いじゃないか」
【手紙】「まったく～」
【メガネk】「しかしあれだな～、入学式とは非常にめんどくさいな」
【手紙】「そゆう事言っちゃ駄目でしょ」
【メガネk】「別に良いじゃねぇかよ～」
【手紙】「ダメって言ったらダメなの」
【メガネk】「ちぇ～」

それから2、3日たったある日

【メガネk】「おい～す」
【保険の先生】「あら、どうしたの？」

【メガネk】「サボりに来た」
【保険の先生】「ちゃんと担当の先生には言ってきたの？」
【メガネk】「ああ」
【保険の先生】「なら良いけど・・・そう言えば」
【メガネk】「なに？」
【保険の先生】「新しく引っ越してきた子がいるんだけど分かる？」
【メガネk】「噂は、聞いたことがある」
【保険の先生】「実は、今日着てるのよ」
【メガネk】「マジで？」
【保険の先生】「マジで」

ガラガラ

【？】「失礼しま～す」
【保険の先生】「あら、いらっしゃい」

そこには、見慣れない女子の姿があった

【保険の先生】「【メガネk】こちらが転校生の【カナリヤ】よ」

・・・・・・・・・・

・・・・・・

・・・

それから、2，3ヶ月後

【メガネk】「入るぞ～」

ガラガラ

【手紙】「それでね～・・・」
【メガネｋ】「何やってんだお前ら」
【カナリヤ】「見ての通り、モン○ンの事について話しているのだｙｏ！！」
【手紙】「そういえば、【メガネｋ】もモ○ハン持ってたよね～」
【カナリヤ】「マジでかｙｏ！！」
【メガネｋ】「ああ、それよりその話し方うざいぞイカ○ヤ」
【カナリヤ】「誰がイ○リヤだ！！」
【メガネｋ】「違うの！？」
【カナリヤ】「違うよ！！」
【メガネｋ】「それは、置いといて・・・モン○ンならもうとっくに売ったぞ」
【手紙】「ええ絵ええええええぇぇぇぇぇぇぇぇ～～～～～～！！！！！！」
【カナリヤ】「お前馬鹿かｙｏ！！」
【メガネｋ】「ヤンのかこの糞アマ～～～！！！！！！！！」
【手紙】「まあまあ、でもまだモンハ○は、出来るよね」
【メガネｋ】「ああ」
【手紙】「じゃあ日曜日に【カナリヤ】の家に行くけど来る？」
【めがねｋ】「ああ、暇だから行くよ」
【カナリヤ】「日曜日だからな、絶対に来いｙｏ！！」

こうして、ひょんな事から【カナリヤ】の家に集まる事になった

第一話入学式（仮）（後書き）

え～どうもｇｇこと【メガネｋ】です、さて第一話が出来ましたが第二話が出来るかどうかは、私の気分です皆さん楽しみにお待ち下さい。

それでは～

第二話神降臨（前書き）

どうも、【メガネk】ことggです、第二話が投稿されましたが、自分は未熟なため何かとお見苦しい面もございますが、そこは御了承下さい。

それでは、どうぞ

第二話神降臨

謎

の町D町第二話神降臨

ピンポーン

【カナリヤ】「は～い」

【メガネk】「よ～、イカ○ヤ」

【カナリヤ】「なんだ、お前か・・・てゆうかイ○リヤじゃねえ！」

【メガネk】「違うの！？」

俺【メガネk】は、【カナリヤ】の家に遊びに来たが、出会い頭に、軽く口喧嘩という何ともいえない状況だが、両者ともに本当に嫌いな訳じゃない、何故なら本当に嫌いなら家に着たりなどしない

【手紙】「お～い」

そこに、【手紙】が現れた、軽く三十分ほどの遅刻だ

【カナリヤ】「遅いぞ」

【手紙】「だって～」

【メガネk】「だってじゃない」
【手紙】「うう～」
【カナリヤ】「ところでその人は誰？」
【手紙】「ああ、この人は、兄の【神】だよ」
【神】「よっ」

そこには、本当に【手紙】兄かと思うほど細い人がいた

【メガネk】「どうも、【メガネk】と申します」
【神】「ああ宜しく」

【神】はなかなか気さくで話しやすく直ぐに打ち解けた、（ちなみに【神】は高二）

【神】「【メガネk】は何か好きな事はあるのか？」
【メガネk】「え～と・・・サバイバルゲームとか」
【神】「サバゲーか～・・・俺は、カ○シ○コフが欲しい」
【メガネk】「a○47ですか、自分はg35○／1かm○7a1ですね」
【神】「あ～なるほどね、【メガネk】はどんな音楽聴くの？」
【メガネk】「演歌も聴くけど最近はロックとかですね」
【神】「なるほどロックは良いよな～
【メガネk】「【神】はどんな音楽を聴くのですか？」
【神】「俺？、俺はロックとかアニソン、あとはクラシックかな」
【メガネk】「なるほど」
【神】「【メガネk】はアニメは見る？」
【メガネk】「ハイ」
【神9「どんなの見る？」
【メガネk】「え～と『けい○ん』とか『トラ○ラ』とか『ケンプ○ー』に『ハ○テのご○く』

『エ○ァ』、『ガ○ダム』、『ラキ☆○タ』・・・ですね」
【神】「あ～『けいお○』ね～、あれは俺も好きだ」

・・・

彼女の名前は【猫】、名前の通り猫のように自由奔放で俺が寝ていると
こうして、叩いてくるのだ、よく男と間違われるが女ですと本人は言う

【猫】「学校で寝ているほうが悪い」
【メガネk】「良いではないか休み時間なのだから」
【猫】「ていっ！！」

ドスっ！！

【メガネk】「アベシッ！！」
【猫】「にゃはははははは～～～♪」

今度は、【猫】のボディーブローがみぞおちに入る

キ～ンコ～ンカ～ンコ～ン

チャイムが鳴るそれと同時に

【猫】「じゃあね」

そう言って【猫】は俺の元を離れていく、俺はそんな彼女の背中を見ながら、寂しさを感じながらも、再び眠りに入る
また【猫】が俺のことを殴りにくるのを期待して。

続く

第二話神降臨（後書き）

え～とりあえず、すみませんでした、も～何かすいません、本当にすいません
文が短いことを、この場を借りてお詫びさせていただきます

本当に申し訳御座いませんでした

第三話狩！？（前書き）

え～、遅まきながら第三話の投稿です、今回は特に前書きは、ありません
それでは、どうぞ

ps字数はそんなに多くありません（笑）

第三話狩！？

第三話「狩！？」

謎の町Ｄ町

【メガネｋ】「ハアハアハア」
ガチャッ！！、とゆう音と、ともにレバーを引く、そして愛用のボウガンに
弾を装填する

【神】「はあああああぁぁぁぁぁぁぁ～～～～！！！！！」
【神】が、太刀を振り下ろす

【カナリヤ】「はあっ！！」
【カナリヤ】が大剣を振り回す

【手紙】「食らえっ！！」
バンッ！、バンッ！、バンッ！
【手紙】持っているライトボウガンの銃口から、炎が吹き出る

そして、俺は、落とし穴を仕掛けて、『仲間』をサポートする

【メガネｋ】「おらあああああぁぁぁぁぁぁぁ～～～～～！！！！！」
ドンッ！、ドンッ！、ドンッ！
俺のボウガンが重厚な、音を立てて、拡散弾を打ち出す

リオ〇ウス希少種、が落とし穴に落ちる、それと同時に
全員が、一斉に攻撃する

【神】「うあああああああぁぁぁぁぁぁぁぁぁ～～～～～～！！！！！！！！！」
【カナリヤ】「たあああああああああぁぁぁぁぁぁぁぁぁ～～～～～！！！！！！！！！」
【手紙】＆【メガネk】「おらおらおらおらおらおらおらおらおらおら～～～～～～～～！！！！！！！！！」

【神】が、太刀を振り回し、腹に斬撃を叩き込む
【カナリヤ】が大剣の力を溜めている
俺と【手紙】が、拡散弾をありったけ打ち込んでいる
リオ〇ウス希少種、が穴から抜け出す、と同時に【カナリヤ】が溜め込んでいた力を、
一気に開放し、大剣を振り下ろす

グアアア

【手紙】「おい、行儀悪いぞ～」
【メガネｋ】「だってモン○ンやるの、久しぶりなんだも～ん」
そう、今までのは全てゲーム、人気ゲーム会社、カプ○ンのモンス○ーハン○ー２Ｇ
を、公民館に集まって、皆で狩に行っていたのである

俺たちは、その後２時間に渡り、狩を楽しんだ
その後は、俺と【神】とで、前日に放送していたｓａｓｕｋｅの真似事をしたりして
楽しんだ

二日後

【猫】「何読んでいるの？」
【メガネｋ】「ん、名言集」
【猫】「面白い？」
【メガネｋ】「なかなか」
・・・・・・・・
【メガネｋ】（やべ～よ、完全にヤバイよ、話すこと特に無いし
【猫】も、何で言うこと無いのに、居るの！？、どうするよ俺！
どうする、何か言うか？でも特に言うこと無いよ）
【猫】「ねえ」
【メガネｋ】「えっな、な、何だ？」
【猫】「なんでもない」

そう言って、【猫】は、教室から出て行った、俺は、引き止めようと
声を掛けたが、聞こえないのか、振り返ること無く教室をでる

俺はそんな【猫】の背中を見ながら何時かに似た寂しさ、を感じていた

俺は、読んでいた名言集を再び読む、そこには『人生とは、なかなかうまくいかない物だ』
そう書いてあった

・・・・・・・・・

【メガネk】「はあああああああ～～～～～～～～～～～～～～」

俺は、深く大きなため息をついた。

続く

体育祭！！（前書き）

遅まきながら、第四話投稿です今回の投稿はこれまで以上に、だらだらした物でした
が何とか投稿ですではでは

勿論今回も、駄文です

体育祭！！

第四話『体育祭』

【メガネｋ】「あ～づ～い～」
【猫】「たあっ！」

ゲシッ！！

【メガネｋ】「タワラばっ！！」

何が、起きたか説明すると、【猫】が俺の向こう脛に強力なローキックを叩き込んだ、

【メガネｋ】「何をするんだ！」
【猫】「蹴り？」
【メガネｋ】「そうじゃなくて・・・何で俺が蹴られなければいけないんだ」
【猫】「さあ～」
【メガネｋ】「さあ～・・・じゃない！！」

今俺たちは、体育祭なる物をやっている、ま～やってると言っても全校生徒数が１００人にも満たない（９５人くらい）の体育祭は、イマイチ迫力が欠けるが、学校行事なのでボイコットする訳にも行かず、無気力なままｐｔａのおっちゃんのどーでもいい話を聞き流しているのだった（多少ふざけながら）

【メガネk】「さ～てと、開会式も終わったし、後は
だらだらヤルだけだ」
【手紙】「アンタは、どれだけ無気力なら気が済むのよ」

こんな感じ、で一時間ほど過ごしていると

アナウンス「プログラムナンバー・・・番、二年男子によります、
２００メートル
徒競走です」

てな訳で、俺は第三コースに入る

アナウンス「・・・第三走者【メガネk】・・・」

アナウンスが入る

【メガネk】「は～、めんどくせ」

俺は、憂鬱だ理由は、簡単、走りたくも無いのに無理やり走らされる
事と、一緒に走る相手が、クラスでも1，2を争うほど早い奴が二人
ようするに、ナンバー1，2が一緒に走るからだ。

【メガネk】「これって、虐めだよな、俺じゃ咬ませ犬にもならね
ぇよ」

「位置について～、よ～イ」
パーン

乾いた、破裂音と共に、周りの奴らが、走り出す
俺も・・・走り出す

【メガネｋ】「めんどっ」

そう言って、気の抜けた走りを、大衆に披露する

結果、俺、ビリ、ドンケツ、後ろから一位

【メガネｋ】「ブザマだな」

俺は、負のオーラを出していた

【手紙】「本気で走らないからだよ」

【メガネｋ】「本気で走ったさ、ただ体が追いつかないんだ」

【猫】「年寄りみたい」

【メガネｋ】「へ～へ～、俺は年寄りですよ」

【手紙】「確かに、初対面だったら間違いなく３０後半のおじちゃんだと勘違いすると思う」

【メガネｋ】「イ～ですよ～、ど～せ俺は喫煙者と間違えられてタバコ関連の資料を渡されましたよ」

【手紙】「そこまで、言ってないけど・・・」

【猫】「そんなの、渡されたんだ・・・」

【猫】＆【手紙】（でも、本当におじさんみたい）

【メガネｋ】「今、俺のことおじさんみたいって思ったろ」

【猫】「変なときだけ、鋭い」

否定してくれよそこは

悲しくなってきた

・・・・・・

・・・

アナウンス「これより、午後の部を始めます」

その後も、紅軍白軍の史上最小規模の戦いは、熾烈を極めた

アナウンス「プログラムナンバー・・・番、男子によります
御旗取を行います」

説明しよう、御旗取とは紅白軍の男子が、相手陣地の旗を取り合う
という
物で、このご時世に珍しく、非常に激しい競技で
毎年、呼吸困難や打撲擦り傷、切り傷は勿論、脱臼や気絶をする人
もいる
程だ、生徒たちの間では、競技でなく、狂技または凶技
または、戦争と呼ばれている。

紅軍団長「行くぞ、野郎ども～！！！

～～～～～～
！！！

夏休み！！

夏休み！

【メガネｋ】「あ～づ～い～」

ミ～ン、ミン、ミン、ミン、ミン、ミ～ン

蝉の鳴き声が聞こえる

【メガネｋ】「てか、うるせっ！！」

今は、夏休みに入ったばかり

と言うか、昨日終業式を終えたばかりだ、

【メガネｋ】「暇だ、暑い」

ｐｕｒｒｒｒｒｒｒｒｒｒｒ

ガチャッ

【メガネｋ】「はい、もしもし」

【カナリヤ】『もしもし、【メガネｋ】？

【メガネｋ】「ああ、そうだ」

【カナリヤ】「今日の、午前１０時、公民館集合な、じゃっ』

プツッ

【メガネk】「どんだけ、勝手なんだよ」

【メガネk】「つーか、一時間後じゃん」

・・・・・・

・・・

【カナリヤ】「遅いぞ」

【メガネk】「それは、【手紙に】に言ってくれ」

その後、三十分間、太陽に有休休暇をやりたい位の暑さの中ひたすら、【手紙】が来るのを待っていた

【カナリヤ】「来た」

【メガネk】「おせぇぞ」

【手紙】「いや～、寝坊しちゃった」

【カナリヤ】「寝坊しちゃった・・・じゃない！！」

【メガネk】ボソッ「めんどくせぇ」

二人が、わーわーぎゃーぎゃー騒いでいる横で、コーヒーを飲みながら、二人の様子を眺めている

もしも、二人が美少女ならば

【メガネk】『来て良かった』

などと、思いながら目の保養になるところだろうが
残念ながら、目の前にいるのは下の中位の（【カナリヤ】）
と下の下位の（【手紙】）しかいない

【メガネk】「おい」
【手紙】「なに？」
【メガネk】「今回は、どんな用件で呼んだんだ？」
【手紙】「・・・・・・・・・・」
【メガネk】「おい」
【カナリヤ】「・・・・・・・・・・」

二人に聞くが、見事に沈黙した。
例えるなら、死者の沈黙と同じくらいの沈黙振りだ

【メガネk】「・・・まさか、何も考えず呼んだのか？」
【カナリヤ】「・・・・・・・・・・」
【手紙】「・・・・・・・・・・」
【メガネk】「・・・・・・・・・・」

コイツラハ、バカダ

ゴンッ！！ガンッ！！

→

（【手紙】と【カナリヤ】が殴られた音）

【手紙】「いった～～～～～～」

【カナリヤ】「痛～～～～～～～～～」
【メガネk】「お前らは、馬鹿か！！」
【手紙】「いくら腹が立ったからって、殴ることは無いでしょう」
【メガネk】「黙れ、ビッチ」
【手紙】「ビッチって、なに？」
【メガネk】「自分で調べろ」

その後、三十分間このような、ぐだぐだでくだらない
話し合いを続けた結果、適当に遊び歩こうと言う
事になった

・・・・・・
・・・

ま～結果は、いつも通りぐずぐずな結果になった

後日

【メガネk】「あ～づ～い～」

何時か言ったような、フレーズを言いながらだらけていた

ｐｕｒｒｒ

【カナリヤ】『もしもし～、【カナリ・・・ブツッ』

ツー、ツー、ツー

ｐｕｒｒｒ

ヒグラシの鳴くころに

完

【カナリヤ】「いなくならねぇよっ！！」

【手紙】「まったくだ〜」

【神】「俺の、了承なしに終わらせるな」
【猫】「（コクコク）」
【メガネk】「だって、このままじゃ俺が【神】を抜く
三人に、弄られる可哀相な展開丸見えじゃねぇ～か、俺はそんなの
嫌だ」
？「それは、これからのお前しだいだ」
一同「！！！

【手紙】
身長約約１５０センチ、体重？（推定６０キロくらい肥満体系）
基本的には、ボケ＆弄られ（わがまま）
大体、弄られている、言動が自分勝手

【カナリヤ】
身長約１５０センチ、体重？
基本ボケ＆馬鹿、弄りキャラ
大体、【手紙】を弄っている、そして俺に弄られている

【神】
身長約１５０センチ、体重約５０キロ（５０キロあるかどうか怪しい）
基本弄り、専門的知識が豊富、唯一の高校生（サッカー部）
何時も【手紙】を弄っている、よく【メガネｋ】と話している

【猫】
身長１６０（推定）体重？（体系は痩せ型でも痩せ過ぎていない）
スタイルも結構良い
基本弄り、【メガネｋ】を弄っている（殴ったり蹴ったり）
学校一の変人【メガネｋ】、【手紙】、【カナリヤ】と仲がいい
彼女自身も、何時も本を読んでいたり物静かでミステリアス
（みんなからは、そう思われている）

以上、キャラ紹介でした
なんか、【猫】だけ説明が長くなってしまいました（照）

夏休み2！！

第6話夏休み2！！

八月某日、０６００時

【メガネk】「・・・・・・・・・・・・・・・」

俺は、ビックリしていた、

【メガネk】「奇跡だ、俺がこんな時間に起きるなんて・・・」

ｐｕｒｒｒｒｒｒｒｒｒｒｒｒｒｒ

ガチャッ

【メガネk】「もしもし」

【手紙】「もしもし、【メガネk】ブツッ・・・」

ｐｕｒｒｒｒｒｒｒｒｒｒｒｒｒｒ

ガチャッ

【手紙】「ちょっと～、【メガネk】～「ピーこの電話は現在使われて
おりません、ピーと言う発信音の後に用件を言うとお前の家が火の
海だ」

ちょっと【メガネk】？ブツッ・・・」

【メガネk】「これで邪魔者はいなくなった」

purrrrrrrr

ガチャッ

【メガネk】「何のようだ！！用件を言え３０秒以内に、一・二・三十秒

はい、時間切れまた来週～」

【手紙】「ちょっと～【メガネk】～」

【メガネk】「なんだ？」

・・・・・・

・・・

あの後、俺は【手紙】の家に来ていた

【メガネk】「で、一体何のようで召集したんだ？」

【手紙】「うん、実は明日皆でどこか行こうかと思って」

【メガネk】「マジで？」

【カナリヤ】「いいぜ、行こうぜ」

【メガネk】「だるっ」

翌日

【手紙】「遅い！！」

【メガネk】「うるさい、俺は眠いんだ」

【カナリヤ】「お前、遅いぞ～」

結局、その日は特に何も無く終わった

・・・・・・・・・

・・・・・・・

・・・

それから、季節は巡り秋を越え冬を越え春になった

今日は入学式、新入生たちが体育館に入ってくる

・・・

そして、順調に式は進み卒業式は終わった

【メガネｋ】「あ～めんどくせ～」

何時かと同じフレーズを言いながら、欠伸をする俺

そして後ろから近づく気配に対して俺は

【メガネｋ】「そんなこと言っちゃ、駄目でしょ～・・・・

だろ？【手紙】」

【手紙】「何で分かるの！？」

【メガネｋ】「これで、３回目だからな」

天然！？（前書き）

え～と、ハイスピードで小説の中の時間が進んでいます
恐らくあと5，6話で現在に追いつくと思います、
普通は、受験勉強をしている筈なのですが、自分はそんな事全くしてません
こんなので、大丈夫でしょうか（焦）

天然！？

天然！！

【メガネｋ】「はあ～、ついに俺も三年か～」
【手紙】「そうだね」
【メガネｋ】「だるいな・・・」
【カナリヤ】「お前はいつもだるいんだｒｏ！！」
【メガネｋ】「黙れ、いか○や」
【カナリヤ】「それ、去年と同じフレーズだｚｅ！！」
【メガネｋ】「お前もナ」

ドスッ！

【メガネｋ】「アベシッ！！」

ボカッ！

【メガネｋ】「タワラバッ！！」

【猫】「何、変な声だしてんの？」
【メガネｋ】「悲鳴だ！！」

二年の頃と全くと言っていいほど、変わらない生活だった
けれど、そんな今の生活も俺はそれなりに楽しいと思っていた
他のやつはどう思っているかは、分からないけど

【猫】「そう言えば、【メガネk】って結構天然だよね」
【手紙】「あ～、なんとなく分かる」
【メガネk】「俺って天然なのか？」
【手紙】「うん、結構」
【カナリヤ】「お前が天然とかにあわね～」
【メガネk】「うるさい」

俺が、天然？んなわきゃ無い、俺と天然なんて
全然イメージが違うじゃないか

【メガネk】「じゃあ、どこら辺が天然なんだ？」
【手紙】「え～と、遅刻だと思って必死で自転車を飛ばしてきたら
実は時計を見間違えただけで、一時間も前に学校に来たこととか・・・」
【猫】「何も無いところで躓いたり、看板や壁にぶつかったり
電車で間違って逆方面に乗ってしまったり（あの時は、皆に呼び戻されて
何とか事なきをえた）・・・」
【メガネk】「う～ん、確かにこうして数えてみると天然としての
要素は、十分だな」

奇しくも、この週の日曜日に俺が天然だということが
確定した事件が起きた

その日は、俺と【手紙】と【カナリヤ】の三人で隣の町へ
バスで向かうことになっていた

・・・・・・

・・・

【メガネk】「あれ？、だれも居ないな？・・・
まさか！遅刻したか！！」

そう思い、俺は自転車で隣の町へ向かうことにした
通学用のギアチェンジが三段階しかない自転車で
およそ、二十キロの道のりを雨の中

【メガネk】「うおおおおおおおおおおおお！！！！！！！！
無理を通せば、道理が引っ込む～！！！！！！！！！！」

俺は、自転車における限界速度の時速三十キロで道路を走っていた
すると、目の前にトラックが現れた

【メガネk】「だあああああああああああ！！！！！！！！！！！！」

ブッブー！！

【メガネk】「いくぜ、デ○ル・バッ○・ゴー○ト！！！！！！！！！！！！」

そう叫びながら、トラックをかわした

・・・・・・

・・・

そのご、三時間にわたり【手紙】たちを探したが結局
見つからなかった

・・・・・・

・・・

結局見つからなかったから、俺は家に帰ることにした
その前に【手紙】の家に行く事にした

【？】「ははははは」
【メガネk】「ん？この笑い声は・・・」

ガチャッ

扉を開けると、そこには居ないはずの【手紙】と【カナリヤ】がいた

【手紙】「あ、【メガネk】どこ行ってたの？」
【メガネk】「隣町」
【手紙】「え？」

俺はその後、一体何があったかをすべて話した

【神】「それで、今しがた自転車で帰ってきたと・・・」
【カナリヤ】「馬鹿で～い」
【手紙】「でも本当に【メガネk】って天然だね」

・・・・・・・・・・

・・・・・・・

・・・

学校

【猫】「ね～【メガネk】」
【メガネk】「なんだ？」
【猫】「デュ〇ララって言うアニメ知ってる？」
【メガネk】「見たことは無いけど、聞いたことはある」
【猫】「ネットで、見れる？」
【メガネk】「ああ見れるぞ」
【猫】「じゃあ、見てきて、そして教えろ」
【メガネk】「分かった、しかし教えろとは穏やかじゃないな」

キーンコーン・・・

【猫】「じゃあ、部活があるから」

そう言って、【猫】は教室を出て行った
そして、俺はやはりいつかに似た寂しさを感じた
と同時に、独占欲が体の奥底から沸き出るのを
感じた

続く

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1667l/

謎の町D町

2010年10月15日03時07分発行